

## 東京大空襲・戦災資料センターにおける 新型コロナウイルスの感染拡大予防ガイドライン

本ガイドラインは、公益財団法人日本博物館協会の「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（2020年5月14日）を踏まえて作成したものです。

新型コロナウイルスの感染防止に取り組むとともに、社会基盤としての博物館の役割を継続的に果たすことを目指しています。

### 感染防止のための基本的な考え方

①密閉空間、②密集場所、③密接場面のある場では、感染を拡大させるリスクが高いと考えられており、本ガイドラインは、こうした場の発生を防ぎ、自己の感染とともに、他人への感染を予防することを旨としています。

今後、公益財団法人日本博物館協会のガイドラインが改訂された場合には、本ガイドラインの見直しをするものとします。

### 感染防止策の周知

スタッフおよび来館者への事前の注意喚起をおこなう。

ホームページ、SNS等で周知するとともに、施設の入り口・施設内に明示する。

①来館前の検温実施の要請のほか、来館自粛を求める条件を示す

37.5度以上の発熱があった場合、咳・咽頭痛などの症状があった場合、過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国や地域への訪問歴がある場合

②ソーシャルディスタンス確保のため、見学を事前予約制とする

時間枠を設け、時間枠ごとの人数を制限する

③来館時の検温および来館者の連絡先の記録

入館時にはスタッフおよび来館者の検温を実施し、37.5度以上の熱が記録された場合には、必要に応じて医療機関、保健所等の受診を促す。

江東区保健所 連絡先 03-3647-5879

来館者に氏名、緊急連絡先の記帳を促し、来館者名簿を作成し、感染発生時に対応できるようにする。ただし、個人情報の取り扱いには十分注意し、別途保管する。

### 飛沫感染のリスク対応

①密閉空間を避けるため、換気設備を稼働する

さらに定期的に窓・ドアを開放し換気をおこなう（1時間に1回5分間）

②マスクの着用

スタッフおよび来館者にマスク着用を促す（不用意の来館者にはマスクを提供する）

- ③受付に透明ビニールカーテンまたは透明ボードを設置する
- ④密集、密接を避けるため、ソーシャルディスタンスを確保する  
見学者がソーシャルディスタンスを確保できるように、見学来館にあたっては、事前予約制とし、時間枠を設けて枠ごとの人数制限をおこなう（開館時間から 2 時間ごとを 1 枠とし、1 枠 30 人までとする）（注）  
また、館内に注意喚起の表示をおこなう
- ⑤従来の団体向け展示ガイドは当面の間、中止する
- ⑥施設内での不要の会話をしないよう注意喚起する
- ⑦施設内での飲食を禁止する

（注）当日の予約状況に空きがある場合に限り、予約なしの来館者の入場を許可することがある。

#### 接触感染のリスク対応

- ①施設内に消毒液を設置し、スタッフ、来館者ともに入館時には手指を消毒する
- ②他者と共有する物品やドアノブなど手が触れる場所の消毒を適宜おこなう
- ③受付での料金の授受はトレーを介しておこなう
- ④受付スタッフはゴム手袋を着用し、適宜消毒をおこなう
- ⑤展示品のハンズオンは原則として禁止する

2020 年 5 月 25 日設定

2020 年 6 月 8 日改訂

参照：公益財団法人日本博物館協会

<https://www.j-muse.or.jp/02program/pdf/coronaguide0000.pdf>